

大阪商業大学学術情報リポジトリ

JGSS-2017グローバル化セッション調査票および EASS 2018グローバル化セッションモジュールの作成

メタデータ	言語: ja 出版者: 日本版総合的社会調査共同研究拠点 大阪商業大学JGSS研究センター 公開日: 2019-06-27 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://ouc.repo.nii.ac.jp/records/698

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



JGSS-2017 グローバリゼーション調査票および EASS 2018 グローバリゼーションモジュールの作成

吉野 智美

大阪商業大学 JGSS 研究センター

孟 哲男

大阪商業大学 JGSS 研究センター

岩井 紀子

大阪商業大学総合経営学部

JGSS-2017 Globalization Questionnaire Design and Development of EASS 2018 Globalization Module

Satomi YOSHINO

JGSS Research Center
Osaka University of Commerce

Tetsuo MO

JGSS Research Center
Osaka University of Commerce

Noriko IWAI

Faculty of Business Administration
Osaka University of Commerce

This article summarizes the development of the Japanese General Social Survey 2017 Globalization (JGSS-2017G) questionnaire. The JGSS-2017G mainly consists of the EASS 2018 Globalization Module, which aims to capture changes, 10 years after the EASS 2008 Globalization Module. After discussions among EASS teams, including Japan, China, Korea, and Taiwan, questions in the EASS 2008 module, which was not used widely, were removed from the EASS 2018 module. JGSS data is generally collected through a combination of interviews and self-administered questionnaires, but due to limited financial resources, JGSS-2017G is collected through self-administered questionnaires only.

Key Words: JGSS, EASS, Globalization module

本稿では、日本版総合的社会調査 2017 グローバリゼーション (JGSS-2017G) の調査票の作成について紹介する。JGSS-2017G は、2008 年に実施した JGSS-2008 の留置 B 票に組み込んだ「EASS 2008 東アジアの文化とグローバリゼーション」モジュールの 10 年後をとらえる「EASS 2018 東アジアの文化とグローバリゼーション」モジュールの設問を中心としている。日本・中国・韓国・台湾の 4 チームによる EASS モジュール協議の結果、2018 モジュールでは、2008 モジュールのうちで利用頻度の低い設問は落とす方針がとられた。JGSS-2017G の調査は、限られた経費で実施するために、調査方法を通常の面接法と留置法から留置法のみに変更した。

キーワード : JGSS、EASS、グローバリゼーションモジュール

1. はじめに

日本版総合的社会調査 (Japanese General Social Survey : JGSS) は、日本人の意識と行動の特徴や変化を継続的に調査する共同研究プロジェクトである。2000年以降、12回の全国調査を実施してきた。East Asian Social Survey (EASS)は、東アジアの人々の意識と行動についての国際比較分析を目的として、2003年にスタートした東アジア社会調査プロジェクトで、東アジア社会に特有な問題や関心に基づいて、日本・韓国・中国・台湾の4チームの共同で共通のモジュールを設定し、2006年から2年に1度、継続的に実施している。

JGSS-2017 グローバリゼーションは第11回特別調査にあたり、「EASS 2008 東アジアの文化とグローバリゼーション」モジュールの10年後をとらえる「EASS 2018 東アジア文化とグローバリゼーション」を組み込んだ。2016年11月から、EASSモジュールについて4チームで協議を重ねて、2017年6月の大阪会議でモジュールを確定後、2017年11月から12月に実査を行った。

本稿では、「EASS 2018 東アジアの文化とグローバリゼーション」の共通設問の作成経緯と、JGSS-2017 グローバリゼーション調査票の作成過程について報告する。次節では、EASS 2018の基礎となる「EASS 2008 東アジアの文化とグローバリゼーション」とそのデータの概要およびEASS 2018モジュールの作成過程について、第3節では、JGSS-2017 グローバリゼーション調査項目の確定の経緯について紹介する。

2. EASS 2018 グローバリゼーションモジュール

2.1 EASS プロジェクト

EASS プロジェクトは、東アジア社会における国際比較を目的として、日本、中国、韓国、台湾の研究機関が合同で立ち上げたプロジェクトで、2003年の開始以降、「EASS 2006 東アジアの家族」、「EASS 2008 東アジアの文化とグローバリゼーション」、「EASS 2010 東アジアにおける健康と社会」、「EASS 2012 東アジアの社会的ネットワークと社会関係資本」、「EASS 2014/2015 東アジアの仕事と生活」、「EASS 2016 東アジアの家族 (EASS 2006の10年後)」をテーマとして6回の調査を終え、「EASS 2018 東アジアの文化とグローバリゼーション (EASS 2008の10年後)」で第7回目となる。

表1 JGSSの調査概要

実査時期	調査名	標本サイズ(地点数),有効回収数(率)
2000.10	JGSS-2000	4,500(300), 2,893 (65%)
2001.10	JGSS-2001	4,500(300), 2,790 (63%)
2002.10	JGSS-2002	5,000(341), 2,953 (62%)
2003.10	JGSS-2003	7,200(489) A票 1,957 (55%) B票 1,706 (48%)(B票に「ネットワーク」)
2005.8	JGSS-2005	4,500(307), 2,023 (51%)
2006.10	JGSS-2006	8,000(526) A票 2,124 (60%) B票 2,130 (60%)(B票にEASS 2006「家族」)
2008.10	JGSS-2008	8,000(529) A票 2,060 (58%) B票 2,160 (61%)(B票にEASS 2008「文化」)
2009.1	JGSS-2009LCS	6,000(396), 2,727(51%); 28~42歳 職歴含むライフコース
2010.2	JGSS-2010	9,000(600) A票 2,507 (62%) B票 2,496 (62%)(B票にEASS 2010「健康」)
2012.2	JGSS-2012	9,000(600) A票 2,332 (59%) B票 2,335 (59%)(B票にEASS 2012「ネットワーク・社会関係資本」)
2013.2	JGSS-2013LCS	JGSS-2009LCSの追跡
2015.2	JGSS-2015	4,500(300), 2,079 (53%)(EASS 2014/15「ワークライフ」)
2016.2	JGSS-2016 (J15拡張版)	25-49歳; 2,100(J15の300地点から140地点抽出), 968 (51%)
2017.1	JGSS-2017	1,500(101), 744 (56%)EASS 2016「家族」
2017.11	JGSS-2017G	1,500(101)留置法のみ, 866 (58%)(EASS 2018「文化」)
2018.2	JGSS-2018	4000(267)(J17とほぼ同一), 1,916(54%)(EASS 2016「家族」)

2.2 EASS 2008 グローバリゼーションモジュールとデータの概要

EASS 2008 グローバリゼーションモジュールの作成経緯の詳細は、榎木（2008）を参照されたい。日韓中台の4チームがEASS 2008 グローバリゼーションモジュールを組込んで実施した各調査の概要は、表2のとおりである。

表2 EASS 2008 の概要

	日本	韓国	台湾	中国
調査対象	20～89歳の男女	18歳以上の男女	18歳以上の男女	18歳以上の男女
抽出方法	層化2段無作為抽出	層化3段無作為抽出	層化3段無作為抽出	層化4段無作為抽出
調査方法	面接・留置法の併用	面接法	面接法	面接法
実施時期	2008年10～12月	2008年6～8月	2008年7～9月	2008年9～12月
計画標本	4,003	2,500	4,601	6,300
有効回収数(回収率*)	2,160 (60.6%)	1,508 (61.0%)	2,067 (44.9%)	3,010 (47.8%)

* 各チームが報告している値に基づいており、それぞれ算出方法は異なる。

2.3 EASS 2018 グローバリゼーションモジュール

EASS 2018 グローバリゼーションモジュールに関する協議は、2016年11月のソウル会議より開始し、2017年6月の大阪会議でモジュールが確定した。ソウル会議では韓国チームにより、EASS 2008 モジュールの個々の設問について、研究報告や論文で用いられている頻度が報告された。EASS 2018 では、利用頻度の低い設問は落とす方針が確認された。

EASS 2018 では、EASS 2008 と同様に、文化に関しては、東アジアの文化との接触頻度や儀礼、海外ニュースを得るメディアの種類について尋ねている。また、回答者の意識に関しては、性別役割分業観、父親の権威、集団志向、内集団志向、権力格差、不確実性の回避、リスク・テイキングについて尋ねている。グローバリゼーションに関しては、外国人の受け入れに関する意識や外国人労働者・外国人花嫁の増加に対する賛否、文化接触による固有の文化の損傷についての意見などグローバル化とナショナリズムへの態度や、グローバル化による自国の経済・雇用機会・環境への影響などグローバル化のもたらす功罪について尋ねている。その他にも、英語の能力、外国での教育・研修経験、外資系企業勤務経験、日常的に接する人数や挨拶を交わす人数などを含む社会的ネットワークについて尋ねている。

EASS 2018 モジュールを組み込んで実施する JGSS-2017 グローバリゼーションでは、限られた経費で調査を実施するために、調査方法を通常面接法と留置法から、留置法のみに変更した。これまで、調査員が口頭で尋ねて面接調査票に回答を書き込んでいた複雑な設問（枝分かれやスキップのある設問）についても、回答者自らが調査票に記入する留置法に移すため、複雑な質問は簡素化し、記入漏れや記入ミスができるだけ少なくなるように努めた。設問の変更の詳細については、下記のとおりである。

(1) 就業に関する設問

就業に関する設問については、副業および過去の職業に関する設問を削除した。

(2) 職業業種の設問

職業業種の設問については、面接員による自由記述から選択性に変更した(Q32)。

(3) 収入の設問

収入の設問については、選択を単純化した (Q37)

(4) 学歴の設問

学歴の設問については、旧制・新制の区別をなくした (Q38)。

その他の変更点としては、メディアの利用に関する設問 (Q5) について、近年のウェブ配信ニュースやソーシャルメディアの普及を受けて、下記のとおり選択肢を変更した。4チームで設問の協議をする中で、この設問については、ニュースの情報源を問うものか、それともニュースの情報を入手するためのデバイスを問うものかとの議論になり、デバイスではなく情報源を明確にするための質問との合意に至った。その結果として、EASS 2018 では、選択肢に新たに「ソーシャルメディア(フェイスブック、ツイッターなど)」

を追加し、「新聞」には（オンライン版含む）、「インターネット」には（ウェブ記事）と、例を追記することにした。

JGSS-2008					
Q50 あなたは、何を通して海外のニュースを知りますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。					
1	2	3	4	5	6
新聞	ラジオ	テレビ	インターネット	知人	その他

JGSS-2017 グローバリゼーション					
Q5 あなたは、何を通して海外のニュースを知りますか。あてはまるものすべてに○をつけてください。					
1 新聞(オンライン版含む)					
2 ラジオ					
3 テレビ					
4 インターネット(ウェブ記事)					
5 ソーシャルメディア (フェイスブック、ツイッターなど)					
6 知人					
7 その他					

上述したように、EASS 2008 の項目のうち、あまり活用されなかった以下の項目は、削除した。

- 東アジアの儀礼とその多様性：姓名判断
- 友人に求める資質 (Preferred Qualities of Friends)：正直、責任感、頭脳明晰、教養、権力、裕福、忠実、思いやり
東アジアのアイデンティティ：居住地域・国家・東アジアへの愛着
- 娯楽：好きな音楽（クラシック、ロック、ジャズ・ブルース、ポピュラー音楽、伝統音楽など）
- 外国での性風俗関係の娯楽を経験：享受した人が周りにどのくらいいるか、経験した地域

社会的ネットワークについての項目は、「EASS 2012 社会的ネットワークと社会関係資本」モジュールで詳細に尋ねたため、EASS 2018 では、日常的に接する人数（家族・親類以外）以外の項目は外すことにした。

- 社会的ネットワーク：新年の挨拶を交わす家族・親類の数、新年の挨拶を交わす人数(家族・親類以外)、日常的に接する家族・親族の数、挨拶を交わしたり・日常的に接する人の職業

EASS 2018 では、「東アジアの儀礼」について、「縁起の良い日」は残し、「姓名判断」は外し、新たに次の項目を加えている。

- 東アジアの儀礼：先祖や親族の墓参り、幸運を願いに神社や寺などを参詣、縁起の良いものや魔よけを身の回りにおく

日本チームは、上記の「先祖や親族の墓参り」の設問と関連する設問として、JGSS-2015 で尋ねた「先祖の墓の承継」についての設問を独自に加えた。

さらに、日本チームは独自に、Grit 尺度設問（根性、やり抜く力）を加えた。Grit は、学業達成のみならず社会的達成にも寄与するとして、欧米の研究で注目されている新たな性格特性である（Duckworth, Peterson, Matthews, & Kelly 2007）。発案者の Duckworth の Grit-S スケールについては、西川らが日本語版（西川・奥上・雨宮 2015）を作成しており、信頼性と妥当性を検証している。西川らの日本語版 Grit 尺度では 5 件法の選択肢として「当てはまる/やや当てはまる/どちらとも言えない/やや当てはまらない/当てはまらない」を採用した。ただし、Duckworth の Grit スケールの選択肢は、左右非対称の中間値のない尺

度である。Grit-S 尺度について、項目と選択肢の日本語訳を検討するために、2017年2月に実施した JGSS-2017 に組み込んだ（Grit 尺度の設問の導入の経緯については、西川・角野・岩井 2017 が詳しい）。JGSS-2017 留置 A 票には西川らの日本語版を組み込み、留置 B 票には JGSS による日本語版を組み込んだ（項目と選択肢については資料 1 を参照）。

JGSS-2017 のデータをもとに、2 種類の Grit 尺度のプリテストの結果について検討した（結果の詳細については、Iwai 2017 で報告している）。回答の分布については、資料 2 のように、8 つのいずれの尺度においても、JGSS による日本語版に比べて、左右対称の尺度である西川らの日本版のほうが、回答が肯定的な方向へ傾いている。両者の平均の差を検定してみると、有意水準を 5% とするならば、いずれの尺度の結果も統計的に有意である。8 つのうち、項目の訳に違いはなく、選択肢にのみ違いがある「勤勉である」についてみても、西川らの左右対称の選択肢の方が、Duckworth の Grit スケールの選択肢と同様に中間値のない左右非対称の JGSS の選択肢よりも、回答が肯定的な方向へ傾いている（資料 3）。

また、教育年数、中学 3 年時の成績や転職回数、年収、階層帰属意識の変数と Grit 尺度の平均（8 つの尺度の平均、4 つの一貫性尺度の平均、4 つの根気尺度の平均）との関連を相関分析でテストしたところ、転職回数以外は、2 種類の Grit 尺度の結果は類似していた¹⁾。転職回数については、JGSS による日本語版の尺度のほうが、相関係数が相対的に高く、統計的に有意である。一貫性尺度は、資料 2 の Grit_1、Grit_3、Grit_5、Grit_6、根気尺度は Grit_2、Grit_4、Grit_7、Grit_8 にあたる。

こうした結果を踏まえて、JGSS-2017 グローバリゼーション調査では、国際比較の観点から、元々の英語版の選択肢（中間値のない左右非対称）に忠実な、JGSS による日本語版を組み込んだ。

3. JGSS-2017 グローバリゼーション調査項目の概要

JGSS-2017 グローバリゼーションは留置調査である（15 頁 123 問 146 変数）。今までの JGSS では面接調査で尋ねられてきた対象者の属性に関する質問も、簡略化し留置調査票にまとめた。

調査票には、以下のような項目がある。

- 対象者の属性：性別、年齢、学歴、先週の就労経験、年収（主な仕事、全体）、世帯収入、婚姻上の地位、居住地域の規模、自分の位置する階層（10段階）、世帯収入についての主観的水準
- 現職：雇用関係、雇用形態、従業員を持つ自営業者か、役職、業種、職種、企業規模、就労時間／週、主な勤め先が公益的団体か
- 現在就労していない対象者：不就労の理由
- 家族：同居人数、同居世帯員（続柄）
- 配偶者：年齢、学歴、先週の就労経験、不就労の理由、雇用関係、雇用形態、従業員を持つ自営業者か、役職、業種、職種、企業規模、就労時間／週、年収（全体）、主な勤め先が公益的団体か
- 父親・母親：学歴
- 子ども：人数
- 調査員に対して：居住地域の特徴、居住形態（一戸建て／集合住宅）、オートロックの有無（集合住宅の場合）
- 宗教：信仰している宗教、信仰の度合い

JGSS-2017 グローバリゼーションの調査票のうち、EASS 2018 グローバリゼーションモジュールは次の項目である。

<EASS 2018 グローバリゼーションモジュール>

- 文化接触：日本アニメ、中国映画、韓国ドラマの視聴頻度
- 東アジアの儀礼：縁起の良い日
- 価値観：性別役割分業観、父親の権威、集団志向（多数派への同調、協調性重視）、内集団志向（縁故採用、同郷意識）、権力格差（上司への服従、有能なリーダー任せ）、不確実性の回避、リスク・テイキング
- 国際問題への関心：話題にする頻度、海外ニュースを得るメディアの種類

- 社会的ネットワーク：家族親類以外で1日に接する人の数（電話、手紙、メールを含む）
- 訪問経験/知人のいる国・地域：中国、韓国、台湾、東南アジア、ヨーロッパ、北アメリカ、その他
- 社会的距離感（同じ職場で働くことに抵抗がある/近所に住むことに抵抗がある/親類になることに抵抗がある）：中国、韓国、台湾、東南アジア、ヨーロッパ、北アメリカ
- 外国人労働者の増加・外国人花嫁の増加に対する賛否
- グローバル化とナショナリズム：外国製品の輸入制限、国益の追求、文化接触による固有の文化の損傷
- グローバル化の影響についての評価：グローバル化による自国の経済・自国の雇用機会・自国の環境への影響に対する評価
- 英語能力：短い記事の読解、会話、手紙の作成
- 外国での5日間以上の教育・研修経験
- 外国企業とのかかわり：外資系企業勤務

<EASS 2018 グローバリゼーションモジュール新規設問>

- 東アジアの儀礼：先祖や親族の墓参り、幸運を願いに神社や寺などを参詣、縁起の良いものや魔よけを身の回りにおく

<EASS 2018 Standard Background Variables>

- 対象者：性別、年齢、婚姻上の地位、最終学歴、教育年数、健康状態、幸福感、就労状況、雇用形態、フルタイム/パートタイム、常時雇用/臨時雇用、営利組織/非営利組織、官公庁・民間、週就労時間、現職（最終職）のISCO2008 職業コード、年収（主な仕事・仕事以外(JGSS は主な仕事のみ)、世帯収入、信仰する宗教、自分の位置する階層（10段階）、相対的世帯収入、地域ブロック、自己判断による居住地域の規模
- 世帯：人数、世帯員、世帯収入
- 配偶者：年齢、最終学歴、教育年数、就労状況、雇用形態、フルタイム/パートタイム、常時雇用/臨時雇用、営利組織/非営利組織、官公庁・民間、週就労時間、ISCO2008 職業コード、年収
- 父親・母親：最終学歴

<EASS モジュールに関連して、JGSS が独自に組み込んだ設問>

- 東アジアの儀礼：先祖の墓の承継
- グローバル化の影響についての評価：グローバル化による日本の消費者・対象者の消費活動・対象者の雇用機会と安定への影響に対する評価
- Grit 項目（JGSS による日本語版）：新しいことを考えたり、やり始めると、それまで取り組んでいたことに集中できないことがある；挫折しても、簡単にはあきらめない；一つのことに夢中になっても、しばらくすると飽きてしまう；努力家である；目標を決めても、別の目標に向かうことがよくある；数ヶ月以上かかることに集中して取り組み続けることは苦手である；数ヶ月以上かかることに集中して取り組み続けることは苦手である；一度始めたことは必ずやり遂げる；勤勉である

4. おわりに

「EASS 2018 東アジアの文化とグローバリゼーション」モジュールを組み込んだ「JGSS-2017 グローバリゼーション」は、全国の20～89歳の男女個人を母集団として、層化二段無作為抽出法で1,500人を抽出し、2017年11月～12月に留置調査法で実施した。有効回収数は860人で、転居・住所不明・死亡・長期不在・病気・入院・その他のケースを除いて算出した回収率は64.0%である。さらに、当初の計画に従って、平成30年度「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業 機能強化支援」と大阪商業大学の研究費の支援を受けて、全く同じ調査票を用いて、全国の20～89歳の男女個人を母集団として、層化二段無作為抽出法で1,200人を抽出し、2018年11月～12月に「JGSS-2018 グローバリゼーション」を実施した。この調査の有効票

は、2019年3月現在、確認中である。JGSSは、JGSS-2017GとJGSS-2018Gのデータを2019年秋に統合を開始する。

韓国チームは、EASS 2018を組み込んだKGSS 2018を8月に終え、台湾チームはTSCS 2018に組み、中国チームはCGSS 2018に組み込んで実施中である。4チームのデータを統合するのは、2020年になる。

[Acknowledgment]

日本版 General Social Surveys (JGSS) は、大阪商業大学 JGSS 研究センター（文部科学大臣認定日本版総合的社会調査共同研究拠点）が実施している研究プロジェクトである。JGSS-2017 グローバリゼーションは、文部科学省平成 29 年度「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業 機能強化支援」と大阪商業大学の支援を受けている。

[注]

(1) Grit_2、Grit_4、Grit_7、Grit_8 については、スケールを逆転して分析している。

[参考文献]

Duckworth, A. L., Peterson, C., Matthews, M. D., and Kelly, D. R., 2007, “Grit: Perseverance and passion for long-term goals,” *Journal of Personality and Social Psychology*, 92: 1087-1101.

榎木美樹, 2008, 「EASS 2008 Culture Module の作成 -JGSS によるプレテストの結果を中心に-」『日本版 General Social Surveys 研究論文集』7: 195-232.

IWAI, Noriko, 2017, “Effects of Differences in Response Scale in Cross-National Surveys” The 1st RC33 Regional Conference, Academia Sinica, Taipei.

西川一二・奥上紫緒里・雨宮俊彦, 2015, 「日本語版 Short Grit (Grit-S) 尺度の作成」『パーソナリティ研究』24: 167-169.

西川一二・角野隆則・岩井紀子, 2017, 「JGSS-2017 調査票の設計 -EASS 2016 家族モジュールと新規項目(同性の結婚・Grit スケール)-」『日本版 General Social Surveys 研究論文集』18: 41-54.

資料1 JGSS-2017 留置調査票 (GRIT 設問抜粋)

【留置A票】	
Q15 以下の8つの項目について、あなた自身にどの程度あてはまるかお答えください。	
	やや どちらとも やや当ては 当てはまら 当てはまる 当てはまる 言えない まらない ない
A	始めたことは何であれやり遂げる-----> 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
B	頑張りやである-----> 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
C	終わるまでに何カ月もかかる計画に ずっと興味を持ち続けるのは難しい-----> 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
D	私は困難にめげない-----> 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
E	物事に対して夢中になっても、 しばらくするとすぐに飽きてしまう-----> 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
F	いったん目標を決めてから、後になって 別の目標に変えることがよくある -----> 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
G	勤勉である-----> 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
H	新しいアイデアや計画を思いつくと、 以前の計画から関心がそれる-----> 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
【留置B票】	
Q15 以下の8つの項目について、あなた自身にどの程度あてはまるかお答えください。	
	とてもよく よく ある程度 あまりあては まったく あてはまる あてはまる あてはまる まらない あてはまらない
A	新しいことを考えたり、やり始めると、それまで 取り組んでいたことに集中できないことがある-----> 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
B	挫折しても、簡単にはあきらめない-----> 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
C	一つのことに夢中になっても、 しばらくすると飽きてしまう -----> 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
D	努力家である-----> 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
E	目標を決めても、別の目標に向かうことがよくある --> 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
F	数ヶ月以上かかることに集中して 取り組み続けることは苦手である-----> 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
G	一度始めたことは必ずやり遂げる-----> 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5
H	勤勉である-----> 1 ... 2 ... 3 ... 4 ... 5

資料2 Grit 設問の回答分布 (JGSS-2017 留置票)

Q15 Grit_1

A票 新しいアイデアや計画を思いつくと、以前の計画から関心がそれる

B票 新しいことを考えたり、やり始めると、それまで取り組んでいたことに集中できないことがある

A票 (n=368)	(%)
当てはまる	4.6
やや当てはまる	23.4
どちらとも言えない	48.1
やや当てはまらない	17.7
当てはまらない	5.2
無回答	1.1
合計	100.0

B票 (n=376)	(%)
とてもよくあてはまる	4.0
よくあてはまる	13.0
ある程度あてはまる	39.6
あまりあてはまらない	36.7
まったくあてはまらない	6.4
無回答	0.3
合計	100.0

Q15 Grit_2

A票 私は困難にめげない

B票 挫折しても、簡単にはあきらめない

A票 (n=368)	(%)
当てはまる	10.6
やや当てはまる	29.3
どちらとも言えない	39.4
やや当てはまらない	16.6
当てはまらない	3.0
無回答	1.1
合計	100.0

B票 (n=376)	(%)
とてもよくあてはまる	6.1
よくあてはまる	22.1
ある程度あてはまる	41.2
あまりあてはまらない	26.9
まったくあてはまらない	3.5
無回答	0.3
合計	100.0

Q15 Grit_3

A票 物事に対して夢中になっても、しばらくするとすぐに飽きてしまう

B票 一つのことに夢中になっても、しばらくすると飽きてしまう

A票 (n=368)	(%)
当てはまる	7.3
やや当てはまる	25.0
どちらとも言えない	33.7
やや当てはまらない	24.5
当てはまらない	8.4
無回答	1.1
合計	100.0

B票 (n=376)	(%)
とてもよくあてはまる	4.8
よくあてはまる	17.0
ある程度あてはまる	40.4
あまりあてはまらない	30.6
まったくあてはまらない	6.6
無回答	0.5
合計	100.0

Q15 Grit_4

A票 頑張りやである

B票 努力家である

A票 (n=368)	(%)
当てはまる	15.8
やや当てはまる	39.7
どちらとも言えない	31.5
やや当てはまらない	10.6
当てはまらない	1.6
無回答	0.8
合計	100.0

B票 (n=376)	(%)
とてもよくあてはまる	6.1
よくあてはまる	19.1
ある程度あてはまる	41.8
あまりあてはまらない	27.1
まったくあてはまらない	5.3
無回答	0.5
合計	100.0

Q15 Grit_5

A票 いったん目標を決めてから、後になって別の目標に変えることがよくある

B票 目標を決めても、別の目標に向かうことがよくある

A票 (n=368)	(%)
当てはまる	3.0
やや当てはまる	25.0
どちらとも言えない	37.2
やや当てはまらない	23.9
当てはまらない	10.3
無回答	0.5
合計	100.0

B票 (n=376)	(%)
とてもよくあてはまる	1.9
よくあてはまる	11.7
ある程度あてはまる	41.0
あまりあてはまらない	38.8
まったくあてはまらない	6.1
無回答	0.5
合計	100.0

Q15 Grit_6

A票 終わるまでに何カ月もかかる計画にずっと興味を持ち続けるのは難しい

B票 数ヶ月以上かかることに集中して取り組み続けることは苦手である

A票 (n=368)	(%)
当てはまる	9.0
やや当てはまる	23.9
どちらとも言えない	36.7
やや当てはまらない	22.0
当てはまらない	7.1
無回答	1.4
合計	100.0

B票 (n=376)	(%)
とてもよくあてはまる	5.6
よくあてはまる	15.7
ある程度あてはまる	35.1
あまりあてはまらない	34.8
まったくあてはまらない	7.7
無回答	1.1
合計	100.0

Q15 Grit_7

A票 始めたことは何であれやり遂げる
 B票 一度始めたことは必ずやり遂げる

A票 (n=368)	(%)
当てはまる	9.2
やや当てはまる	34.2
どちらとも言えない	39.9
やや当てはまらない	12.8
当てはまらない	3.0
無回答	0.8
合計	100.0

B票 (n=376)	(%)
とてもよくあてはまる	9.0
よくあてはまる	16.2
ある程度あてはまる	49.5
あまりあてはまらない	20.5
まったくあてはまらない	4.3
無回答	0.5
合計	100.0

Q15 Grit_8

A票 勤勉である
 B票 勤勉である

A票 (n=368)	(%)
当てはまる	7.6
やや当てはまる	25.0
どちらとも言えない	41.3
やや当てはまらない	17.9
当てはまらない	7.3
無回答	0.8
合計	100.0

B票 (n=376)	(%)
とてもよくあてはまる	5.1
よくあてはまる	13.8
ある程度あてはまる	41.0
あまりあてはまらない	31.6
まったくあてはまらない	7.7
無回答	0.8
合計	100.0

資料3 Grit 設問（勤勉である）の回答分布（JGSS-2017 留置票）

